

岩村議員の「公共交通コミュニティバス実証実験の中間検証について」のうち「実証実験における 利用人数 及び 利用者動向について」のご質問からお答えいたします。

実証実験を開始した 本年10月1日から11月30日までの期間において、延べ33名の利用がありました。また、利用者の動向につきましては通院及び買い物による利用が多数となっております。

次に「乗継ぎに対しての利用者の声について」であります。利用者アンケートにおいては、乗継ぎなしに 市内中心部まで行くことができる路線や、有珠地区内を循環する路線を希望するご意見がありました。

次に「実証実験の今後の展開について」であります。利用者アンケート結果を踏まえ、有珠地区内を循環するルートでの 実証実験の実施について検討しております。

次に「公共交通コミュニティバスの将来的な構想について」であります。公共交通事業者や関係機関などと連携を図り、利便性と効率性を考慮しながら、公共交通コミュニティバスを含め、本市の実情に合った交通体系を構築することが 重要であると認識しております。路線バスや愛のりタクシーなど既存の交通手段を生かしつつ、持続可能な公共交通体系のあり方について検討して参ります。

次に「クマ駆除出動条件の影響について」のうち「北海道 猟友会の方針に対する影響等について」であります。仮に対応を拒否された場合は、市民の安心・安全を守れず、住民生活を脅かす事態になると認識しております。よって、今後もこれまでと同様の対応ができるよう関係機関との協議を継続して参ります。

次に「クマ捕獲の対応策について」であります。目撃情報などがあった場合、現地調査や追払いを行います。捕獲の必要がある場合は「わな」での捕獲を基本としております。

次に「クマ駆除に関する今後の対応について」であります。現在は、関係機関と連携し、情報共有の上 対応しております。今後も、これまで以上に猟友会との連携を強化し、市民の安心・安全を確保しつつ、猟友会が不安なく出動できる体制を築いて参ります。